

絵本ギャラリーを20日、21日に開催します！

1 知的生産の準備としての読書

読書を通じて、子どもは読解力や想像力、思考力、表現力等養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができます。また、書籍や新聞、図鑑などの資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る



喜びを体得し、更なる知的探求心や真理を求める態度が培われます。このため、子どもが自ら読書に親しみ、読書習慣を身に付けていけるよう、子どもの興味・関心を尊重しながら自主的な読書を家庭でも積極的にすすめていくことが重要です。

子どもたちにとって絵本に親しむことは、そのきっかけとなります。

2 絵本を親子で楽しむことの意味

「絵本のある生活」をおくると実際、どんなことが起きるのでしょうか。まず、絵本は親子のコミュニケーション向上に役立ちます。たとえば、絵本の場合、一緒にページをめくり、時間とその空間を、自分と子どものペースで楽しむことができます。親が読み聞かせるだけでなく、子どもと会話を交わしながら物語を追っていく時間は親子にとって豊かな心をはぐくむ、かけがえのないものになるでしょう。



3 大人も楽しめる絵本

多くの絵本は子ども向けに書かれているからこそ、多くの「教え」や「気づき」が含まれています。

絵本を通して、21世紀を生きるために必要な知恵をえることができます。

毎月、第三土曜日は「家読の日」です。